

目指す都市像(案)

ともに生き ともに輝く にぎわい交流拠点都市 姫路

世界文化遺産・姫路城をはじめ、豊かな歴史文化や産業、自然環境に恵まれたふるさと姫路を舞台に、多様な人が、互いの命・暮らしをたいせつに想い、支え合って、力強く輝く。

そして、播磨の交流拠点都市としての特長を活かし、まちとまちの連携、ヒト、モノ、情報の活発な交流を通じて、世界に誇れるまちの魅力やにぎわいを創出する、持続可能で生涯安心してくらすことのできる都市を目指す。

人口ビジョン(案)

：人口に関する認識を市民全体で共有することを目的に、今後目指す将来の方向と人口の将来展望を示すもの。

1 目指す 2030 年の定住人口 51.8 万人

将来にわたって、安定した市民生活を維持するためには、急激な人口減少を回避するとともに、世代間の偏りが小さい安定した人口構造を実現することが重要である。

2016 年 3 月に策定した「ひめじ創生戦略」の人口ビジョン（以下、「創生人口ビジョン」という。）では、人口減少が緩やかで特定の世代への偏りが小さく人口構造の形が安定する人口シミュレーションを基に、人口減少問題を克服するために目指すべき 2060 年の定住人口を約 47 万人としたところである。（図表 1、2）

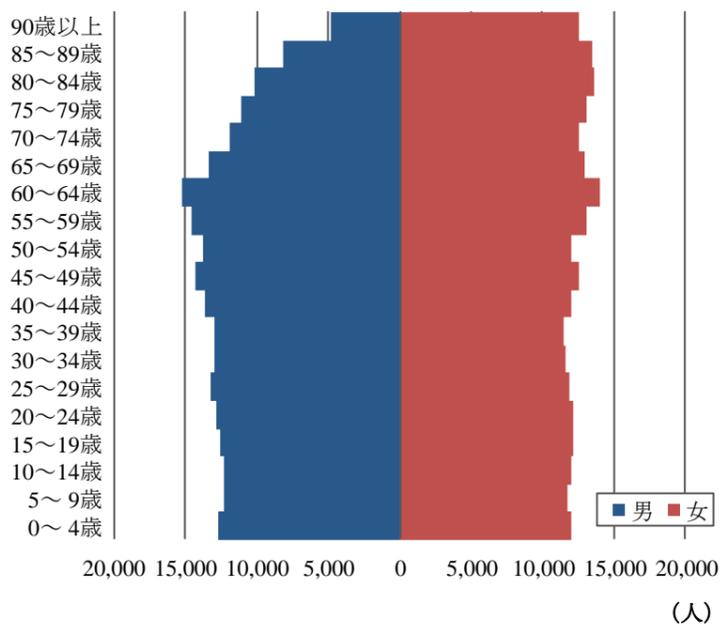
このような中、2018 年に公表された国立社会保障・人口問題研究所の人口シミュレーションに準拠した本市の人口推計のトレンドは、2013 年に公表された同人口シミュレーションに準拠した場合

に比べ、創生人口ビジョンで目指す人口推計のトレンドに近づきつつあるものの、そのペースには届いていない。（図表 2）

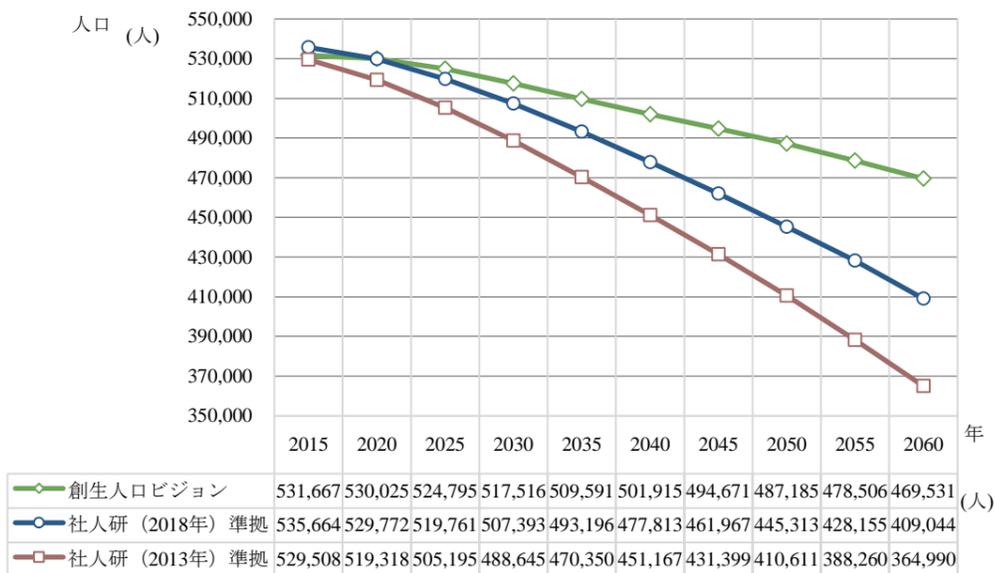
また、本市の合計特殊出生率は 2014 年からほぼ横ばい（図表 3）であり、東京圏・大阪府への転出超過数は 2017 年から改善傾向（図表 4）にあるものの、今後も着実な取り組みが必要である。

これらを踏まえ、新総合計画では、引き続き創生人口ビジョンで目標と定めた「2060 年の定住人口 約 47 万人」を長期的に目指すこととし、同ビジョンにおける 2030 年時点の推計値である 51.8 万人を目指す定住人口と定め、その実現に向けた取り組みを推進していく。

図表 1 創生人口ビジョンにおいて目指すべき人口構造(2060 年)



図表 2 人口推計比較



※ 創生人口ビジョン及び社人研 (2013 年) 準拠は 2010 年の国勢調査の人口を基に、社人研 (2018 年) 準拠は 2015 年の国勢調査の人口を基に人口推計している。

図表 3 合計特殊出生率の推移 (姫路市)

年	2014	2015	2016	2017
合計特殊出生率	1.55	1.57	1.53	1.55

※ 住民基本台帳ベース (外国人含まない)

図表 4 東京圏・大阪府への転出超過数の推移 (姫路市)

年	2014	2015	2016	2017	2018
東京圏・大阪府への転出超過数(人)	560	825	1,064	930	758

※ 住民基本台帳ベース (外国人含まない)

2 交流人口・関係人口づくり

(1) 交流人口づくり

今後、見込まれる人口減少は、地域経済の縮小など負の影響を及ぼすことが予測されることから、旅行者や短期滞在者などの地域外から訪れる、いわゆる交流人口を増やすことで、定住人口の減少を補い、地域における活力の維持・増進につなげていく。

(2) 関係人口づくり

人口減少と少子高齢化の進行により、地域づくりの担い手が不足するといった課題に対し、「その地域にルーツがある方」「ふるさと納税の寄付者」「スキルや知見を有する都市部の人材等」といった地域や地域の人々と多様に関わる人々である「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となり、行政などとの協働によって地域課題の解決に取り組んでいく。